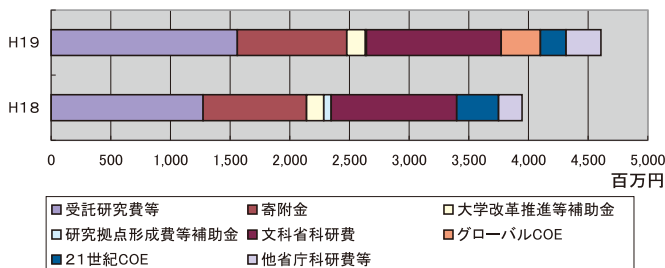


## ■外部資金

本学では経費節減と伴に外部資金獲得についても積極的に努力しており、外部資金獲得に対する学内予算配分におけるインセンティブの付与も行ってまいります。

(単位:百万円)

科目	H19		H18	
受託研究費等(共同研究、受託事業含む)	1,560	33.8%	1,273	32.2%
寄附金	918	19.9%	868	22.0%
大学改革推進等補助金	157	3.4%	145	3.7%
研究拠点形成費等補助金	7	0.2%	61	1.5%
文部科学省科学研究費補助金(※)	1,129	24.5%	1,052	26.7%
グローバルCOE	330	7.2%	-	-
21世紀COEプログラム(※)	214	4.6%	351	8.9%
他省庁科学研究費補助金等(※)	294	6.4%	198	5.0%
合計	4,609	(100%)	3,948	(100%)



※科学研究費補助金や21世紀COEプログラム等のように研究者や研究組織等に交付される補助金等については、「預り金」として処理するため損益計算書上の費用・収益には計上されません。

## 平成19年度 トピックス

### ◎附属病院新病棟開院

本学では附属病院の再開発事業を展開しております。本事業のうち、新病棟が、平成20年3月13日に完成し、6月4日に開院しました。附属病院では、「人間性を重視した患者本位の医療」という基本方針のもとで、新しい病棟においても、患者さまに配慮した安全で、且つ、最高水準の医療を提供することを目指します。

なお、引き続き病院本館改修に着手する予定です。



### 国立大学法人長崎大学財務レポート 2008 (リーフレット版)

〒852-8521 長崎県長崎市文教町1-14 長崎大学財務部

長崎大学HP <http://www.nagasaki-u.ac.jp/>

(財務情報 [http://www.nagasaki-u.ac.jp/open/zaimu\\_jouhou.html](http://www.nagasaki-u.ac.jp/open/zaimu_jouhou.html))

# 財務レポート 2008

Financial Report 2008

【2007. 4. 1~2008. 3. 31】



教育学部本館1期改修  
(H20. 3完成)

工学部本館2期改修  
(H20. 3完成)



水産学部本館改修  
(H20. 3完成)

## 平成19年度 決算概要

(単位:百万円)

区分	H19	H18	H17	
貸借対照表 <b>財政状態</b>	資産	122,218	106,855	96,506
	負債	51,761	41,437	31,474
	純資産(※1)	70,456	65,417	65,031
損益計算書 <b>運営状況</b>	費用	41,670	38,896	39,189
	内数(経常費用)	(41,663)	(38,881)	(38,987)
	収益	42,800	40,345	40,562
	内数(経常収益)	(42,797)	(40,345)	(40,413)
	目的積立金取崩額	312	316	25
	損益	1,442	1,765	1,398
	目的積立金承認(申請)額	(1,217)	1,137	837
キャッシュ・フロー 計算書 <b>資金の流れ</b>	期首残高	12,158	8,955	6,452
	業務活動	5,239	2,724	4,061
	投資活動	△ 6,122	△ 5,271	△ 5,035
	財務活動	5,002	5,750	3,477
	期末残高	16,277	12,158	8,955
国立大学法人等 業務実施コスト計算書 <b>国民負担</b>	業務実施コスト	18,612	18,366	18,500
	収入	55,588	50,290	50,650
決算報告書 <b>予算収支状況</b>	支出	53,320	48,192	49,251
	収入-支出	2,268	2,098	1,399

(※1) 国立大学法人会計基準の改正に伴い、平成19年度から旧「資本」を「純資産」として計上しております。

○附属病院の再開発や教育学部、工学部、水産学部の改修により、資産が前年度を大幅に上回っております。また、附属病院の再開発事業が主に借入金によるものであり、未払金も増えたため、負債も前年度を大幅に上回る結果となりました。

○運営費交付金の算定ルールによる一律削減や、総人件費抑制策などの国の施策による厳しい環境の中で、当期総利益(損益)は前年度を下回りましたが、経費削減及び自己収入の増収などに努めた結果、ほぼ前年並みの剰余金(目的積立金の承認申請額)が生じました。

## 目的積立金の使用実績

(単位:百万円)

執行額	H19	H18
執行額	722	637
平成19年度使用実績の主な事業名		
附属病院設備等整備(中央診療施設及び診療科の基盤的設備等整備、外来化学療法室設置など)		
附属病院大型機器更新(全身管理・再建基本システム、造血幹細胞移植管理システムなど)		
教育学部附属中学校プール更衣室改修及び濾過装置取り替え		
練習船「鶴洋丸」主機関陸揚げ設備工事		

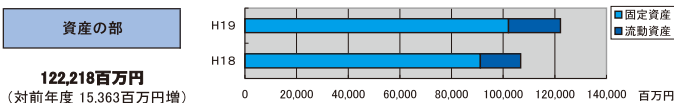
目的積立金は、文部科学大臣の承認を受けた剰余金のごとで、中期計画に定める剰余金の使途に充てることとしております。



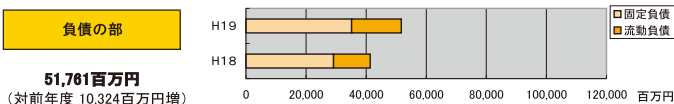
貸借対照表

		(単位:百万円)	
科目	H19	H18	
<b>資産の部</b>	<b>122,218</b>	<b>106,855</b>	
(固定資産)			
土地	42,800	42,833	
建物等	46,025	24,006	
工具器具備品等	7,747	3,565	
図書	4,159	4,094	
船舶	841	986	
建設仮勘定(※1)	8	15,203	
その他	468	481	
(流動資産)			
現金・預金	16,287	12,168	
未収入金	3,398	3,120	
たな卸資産	288	285	
その他	192	111	
<b>負債の部</b>	<b>51,761</b>	<b>41,437</b>	
(固定負債)			
資産見返負債(※2)	7,365	7,969	
承継債務負担金(※3)	5,952	6,866	
長期借入金	20,557	13,713	
その他	1,288	577	
(流動負債)			
運営費交付金債務	955	900	
寄附金債務	2,113	1,979	
受託研究等債務	501	314	
一年以上返済予定金	925	1,024	
未払金	11,377	7,801	
その他	725	289	
<b>純資産(※5)の部</b>	<b>70,456</b>	<b>65,417</b>	
資本金	56,276	56,293	
資本剰余金	7,744	3,417	
利益剰余金	6,435	5,707	
(目的積立金)	(1,880)	(1,457)	
(積立金)	(3,112)	(2,484)	
(当期末処分利益)	(1,442)	(1,765)	

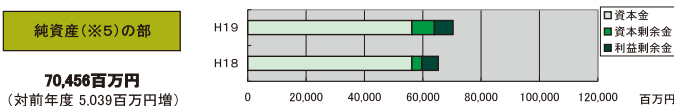
貸借対照表は、大学の財政状態を明らかにするもので、決算日(毎期3月31日)における全ての資産、負債及び純資産を記載しております。



資産の部は、附属病院の再開発や教育学部、工学部、水産学部の改修により大幅に増加しております。



負債の部は、附属病院再開発に伴う長期借入金の増加等により大幅に増加しております。



純資産(※5)の部は、附属病院の再開発による建物の取得や教育学部、工学部、水産学部の改修により資本剰余金が増加しているため、総額では大幅に増加しております。

- (※1) 建物等完成前に当該工事に投入された経費相当額を表すものです。
- (※2) 損益に減価償却費の影響が生じないように、その見合相当額を収益化するために負債計上したものです。
- (※3) 法人化当初に本学に義務付けられた(独)国立大学財務・経営センターへ償還すべき債務のことです。
- (※4) 資金収入は得ているものの事業実施が次年度以降となるため、その実施義務を繰り越したものです。
- (※5) 国立大学法人会計基準の改正に伴い、平成19年度から旧「資本」を「純資産」として計上しております。

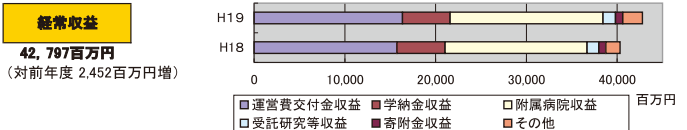
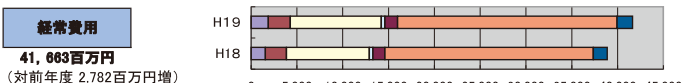
損益計算書

		(単位:百万円)	
科目	H19	H18	
<b>経常費用</b>	<b>41,663</b>	<b>38,881</b>	(100%)
教育経費	1,865	1,560	4.0%
研究経費	2,414	2,303	5.9%
診療経費	9,930	9,037	23.3%
教育研究支援経費	405	406	1.1%
受託研究費等	1,377	1,299	3.3%
人件費	23,954	22,748	58.5%
一般管理費等	1,715	1,527	3.9%
臨時損失	7	14	
当期総利益	1,442	1,765	

損益計算書は、大学の運営状況を明らかにするもので、一会計期間(毎期4月1日～3月31日)における全ての費用及び収益を記載し、当期の総利益又は総損失を表示しております。

※目的積立金を当期の費用として使用した相当額です。

◎経常費用・経常収益の構成内訳



利益の処分に関する書類(案)

		(単位:百万円)	
科目	H19	H18	
I 当期末処分利益			
当期総利益	1,442	1,765	
II 利益処分額			
積立金	224	627	
目的積立金(※)	1,217	1,137	

利益の処分に関する書類は、当期末処分利益の処分の内容を明らかにするものです。

※現金の裏付けがあり事業の用に供することが可能な額について文部科学大臣の承認を受け、その相当額を中期計画に定める剰余金の使途に充てるために積み立てられるものです。なお、本学では教育研究支援及び組織運営改善のために使用する予定です。

キャッシュ・フロー計算書

		(単位:百万円)	
科目	H19	H18	
<b>I 業務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>5,239</b>	<b>2,724</b>	
人件費支出	(△23,426)	(△23,197)	
原材料・商品又はサービスの購入による支出	(△12,699)	(△13,138)	
運営費交付金収入	(17,322)	(16,370)	
附属病院収入	(16,518)	(15,666)	
学生納付金収入	(5,160)	(5,210)	
その他	(2,364)	(1,812)	
<b>II 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△ 6,122</b>	<b>△ 5,271</b>	
定期預金預け入れによる支出	(△11,007)	(△9,003)	
有形固定資産等の取得による支出	(△10,777)	(△7,310)	
定期預金払い戻しによる収入	(11,007)	(9,005)	
施設費による収入	(4,523)	(1,925)	
その他	(132)	(110)	
<b>III 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>5,002</b>	<b>5,750</b>	
承継債務負担金の返済による支出	(△1,013)	(△1,072)	
長期借入による収入	(6,854)	(7,469)	
その他	(△838)	(△646)	
<b>IV 資金増加額</b>	<b>4,119</b>	<b>3,203</b>	
<b>V 資金期首残高</b>	<b>12,158</b>	<b>8,955</b>	
<b>VI 資金期末残高</b>	<b>16,277</b>	<b>12,158</b>	

キャッシュ・フロー計算書は、一会計期間(毎期4月1日～3月31日)における大学の資金(キャッシュ)の流れ(フロー)に着目して集計したもので、業務活動、投資活動及び財務活動に区分して記載しております。

※表中の内訳( )は、支出(キャッシュ・アウト)をマイナス表示、収入(キャッシュ・イン)をプラス表示にて表しております。

国立大学法人等業務実施コスト計算書

		(単位:百万円)	
科目	H19	H18	
<b>I 業務費用</b>	<b>16,735</b>	<b>15,470</b>	
損益計算書上の費用(控除)自己収入等	(41,670)	(38,896)	
(学生納付金収益、附属病院収益等)	(△24,935)	(△23,425)	
<b>II 損益外減価償却等相当額(※1)</b>	<b>1,853</b>	<b>1,628</b>	
<b>III 引当外賞与増加見積額(※2)</b>	<b>△363</b>	<b>—</b>	
<b>IV 引当外退職給付増加見積額</b>	<b>△441</b>	<b>210</b>	
<b>V 機会費用</b>	<b>828</b>	<b>1,057</b>	
国有資産等の無償使用等から生じる機会費用	(35)	(48)	
政府出資等(※3)から生じる機会費用等	(793)	(1,009)	
<b>合計(国立大学法人等業務実施コスト)</b>	<b>18,612</b>	<b>18,366</b>	

国立大学法人等業務実施コスト計算書は、一会計期間(毎期4月1日～3月31日)における大学の業務運営に伴い国民が負担するコストを一定のルールにより集約して表示したものです。

(※1) 償却資産のうち、その減価に対応すべき収益の獲得が予定されないものとして文部科学大臣に特定された資産について、当該資産の損益計算書に計上されない減価償却相当額のことです。

(※2) 国立大学法人会計基準の改正に伴い賞与引当金を計上しない相当額について、平成19年度から引当外賞与増加見積額を計上しております。

(※3) 法人化当初に国から出資された政府出資金や拠出された資本剰余金、国から交付された施設費等のことです。